



創刊号～50号までの「ボラセンニュース」。「みやぎ生協ボラセンニュース」はHPで見ることができます。
「みやぎ ボラセンニュース」で検索。 <http://blog.miyagi.coop/jishin01>

被災地のいまを伝えていく ～みやぎ生協ボラセンニュース、50号発行

みやぎ生協では、震災直後から毎週のように「みやぎ生協ボラセンニュース」を発行し、6月15日に50号を発行しました。記事をつくらせている、みやぎ生協生活文化部の須藤敏子さん、山田尚子さんにお話を伺いました。

毎週発行することで、「覚悟」を伝えようとした

みやぎ生協ボランティアセンター発行の「みやぎ生協ボラセンニュース」(以下、ボラセンニュース)が、今年6月15日に50号を迎えました。

みやぎ生協生活文化部の須藤敏子さんは、「ニュースは定期的な間隔を空けず発行するのが鉄則だと思っています。それはとても大変なことですが、多くの人に関わってもらって本気でボランティア活動を広げていく、その覚悟を見せていくには、毎週発行していくことが大切だと思ったのです」と話します。



編集業務を行なう山田尚子さん。

被災した人たちに寄り添う、経済的支援を行う

ボランティア活動は当初の物資支援や清掃などから、普段の生活にどう戻っていくかを考えながら被災した人たちに寄り添う形へと変わってきています。

「サロン活動を通じた被災者の孤立化防止やコミュニティづくり支援は、これからも継続していきますが、もうひとつの課題は、ボランティアとして、生活再建のためにどんな経済的支援ができるかです」と須藤さん。被災した方々が作ったエコたわしを「ボラセンニュース」で紹介して販売を応援するということも考えているそうです。

変わり続ける支援のかたちに応えたい

また、須藤さんは、今後家を建て直したり、集団移転が決まったりすることで、ようやくでき始めたコミュニティがまた壊れることを心配しています。

「仮設住宅に残った人たちは焦りや疎外感を感じたりするだろうと思うんですね。そうした人たちをどう支えていくか…。考えさせられることが多くあります」

被災地の人たちがいま怖れているのは「忘れられること」だと言います。編集・レイアウトを担当するみやぎ生協生活文化部の山田尚子さんは、

「忘れられないように、現状を直に見てもらいたい。そういうことを『ボラセンニュース』で発信していかなければならないと思っています」といいます。山田さんにとって「ボラセンニュース」は、震災の時支えてくれた人たちへのお礼でもあります。

「全国の皆さんから、物的支援や心のもったメッセージをいただきました。1つひとつにお礼ができてないのが気がかりです。せめてこのニュースで、こんな風に元気にやっていますということをお伝えしたいと思います」



掲示板の分かりやすい場所に張られた「ボラセンニュース」50号。